

# 社会医療法人社団健生会 立川相互病院 臨床研修第三者評価受審の取り組みについて



臨床研修センター長  
副院長  
山田秀樹

# 立川市および立川相互病院について

立川市は東京西部（多摩）の中心都市で人口増加地域。  
当院は立川駅から徒歩8分、287床の急性期総合病院です。



- 研修医 1年目 7名、2年目 8名 \*5年連続フルマッチ
- 常勤医75名 臨床研修指導医 33名（指導医講習会受講率60%）

医師研修の歴史は1973年から…臨床研修必修化後 受け入れ146名

# 青年医師の声から研修制度づくりへ

- 1970年代 青年医師たちが自分たちの研修を良くする提言を作成。
- 1980年代 提言をもとに当院での2年間研修目標の設定、研修医手帳を自前で作り、指導医評価も記入できるようにした。  
(その当時の研修医は現理事長・院長に)
- 1990年代 2年間の初期研修にプラスし、新しい技術研修も取り入れる目的で、中期専門研修も開始。  
3年目は必ず診療所で研修することも位置づけられた。
- 2000年代 **臨床研修必修化に向けて2年間の基本プログラムを作成。**
  - 2001～ **スーパーローテーション、多職種連携教育の位置づけ**
  - 2002～ **初期研修医導入期内科研修・屋根瓦方式指導体制開始**
  - 2003年 **総合診療科立ち上げ**

# 2年間の研修スケジュール

1年目													2年目										
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
オリエンテーション 0.5ヶ月		導入期研修 (内科) 4.5ヶ月			各科研修（選択可能な科） 外科（8週間）・小児科（5週間）・産婦人科（5週間）・救急科（10週間）・麻酔科（3週間）・精神科（5週間）・地域医療（5週間）・ 総合診療科・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・腎臓内科・内分泌代謝科・内科リハビリテーション科・保健所・整形外科・泌尿器科・ 皮膚科・脳神経外科・神経内科 以上から選択																		
※下線は必修科・赤字は他病院での研修													※内科系は9週間の研修となります ※救急科は1年次、2年次各5週間の研修を予定										
※年によって期間は異なります																							

・**オリエンテーション**：入職0.5カ月目はオリエンテーション期間とし、病院の理念の学習・法人関連施設の見学・看護師と合同の技術研修・他職種体験でチーム医療を学び、スムーズに研修が始められる環境を整備しています。

・**導入期研修**：統合的内科研修スタートを全員に位置づけ、同期で育ちあうこと、内科の基礎的な力を身につけます。

・**救急研修**：6月スタート。各科ローテーション中、週1回のER研修を継続し、段階的な研修を経て、2年間で1人で救急初期診断や治療ができる力を身につけます。

・**当直研修**：8月スタート。（副直13回：同時call5回・Firstcall8回）を経て、内科3番手として1月頃より本当直業務に。

・**訪問診療研修**：4か月以上の継続した訪問診療研修を通し、プライマリ・ヘルスケアの診察能力を身につけ、地域とそれを支える福祉・医療のネットワークを理解すること。診察だけでなくネットワークの調整能力習得も目指します。

・**一般外来研修**：内科・小児科・救急科ローテーション中に並行して一般外来研修を行います。2年間を通して40単位の研修を行います。

・**診療所研修**：訪問診療研修や外来研修など地域密着型の医療活動を学びます。

# 研修フィールドは「地域」と位置づけ

## 〈救急〉

二次救急病院として、年間約4500台弱の救急車を受け入れ。common diseaseの経験重視。気になる受診患者訪問なども実施します。



## 〈訪問診療〉

法人全体で1500名以上の患者さんを管理。月2回程度、指導医とともにご自宅に訪問して診察します。

**医師として主体的に関わり、患者さんの人権を守る地域密着の医療を経験すること**



## 〈診療所研修〉

1か月間で地域医療・福祉のネットワーク学びます。



## 〈一般外来〉

指導医やコメディカルのサポート下で一般内科の診察を行います。

# 立川相互病院 オリジナルカリキュラム

～プロフェッショナリズム教育の一環として～

## 保健予防活動

患者さんや地域住民の人たちと共に地域でヘルスプロモーション活動に取り組んでいます。研修医も健康講座の講師などで活躍しています。

- ・健康講座
- ・健康相談会
- ・立川健康まつり（立川市後援）



## アドボカシー研修 （権利擁護）

SDH（健康の社会的決定要因）の視点に立ち、症例を通して患者さんを取り巻く社会問題を実感し矛盾を捉えたり、医療者が代弁者として求められる意味を考えます。

- ・症例検討
- ・地域診断結果を行政へ

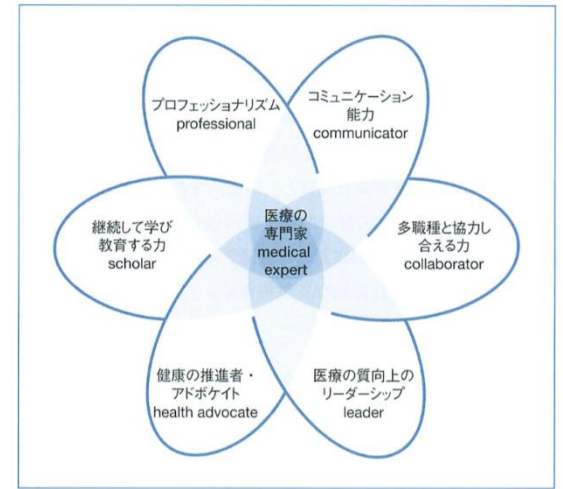


図1-カナダのRoyal College of Physicians and Surgeonsが示す医師に求められる7つの専門的役割・能力（文献1）より

## 地域診断（調査）

病院の中だけではなく立川市の地域状況、健康課題を知る取り組みも行っています。毎年多職種と共同でテーマを決めて調査・フィールドワークを行っています。

- ・立川市の喫煙状況について
  - ・立川市民と日野市民の健診受診率の調査
  - ・孤独死調査
- etc…



## 医の倫理や 平和を考える取り組み

医療者として、平和で健康に生きる権利について学び考える機会を設けています。

- ・被爆者集団健診ボランティア
- ・原水爆禁止世界大会参加
- ・フィールドワーク



# NPO法人卒後臨床研修評価機構 (JCEP)

## 初回受審からの流れ

- **2008年1月28日** 新規受審（29番目） **4年認定**

2010年1月 更新書面調査

- **2012年1月31日** 更新訪問調査 **4年認定**

2014年1月 更新書面調査

- **2015年12月17日** 更新訪問調査 **4年認定**

2018年1月 更新書面調査

- **2019年12月19日** 更新訪問調査 **4年認定エクセレント賞**

2022年1月 更新書面調査

- **2023年12月** 4回目の更新訪問調査（予定）



エクセレント賞  
※全国319受審病院中  
22病院  
(2023.4.1現在)

# 書面調査・訪問調査対応への体制

- **書面調査**

**事務3名**：医局事務課長、臨床研修センター担当事務2名

**医師2名**：研修プログラム責任者、医療情報管理部長

- **訪問調査**

**医師4名**：院長、研修プログラム責任者、医療情報管理部長、  
研修委員会から代表して指導医の医師

**看護6名**：看護部長、研修病棟師長2名、ER師長、  
医療安全担当者、感染管理ICN

**技術2名**：薬剤部長、臨床検査技師長

**事務8名**：事務長、事務部長、クリニック（外来部門）事務次長、  
診療情報管理課2名、医局事務課長、臨床研修センター担当事務2名

**研修医インタビューは院外研修中の者を除き全員に参加を促すこととしている**



# 書面調査 準備

担当者：医局事務課長、臨床研修センター担当事務2名、  
医師2名（研修プログラム責任者、医療情報管理部長）

**準備期間：1ヶ月半**

**作業時間：1日30分～1時間程度（主に事務担当者）**

**作業量：調査票のデータ収集、整備状況確認、掲示物の確認など**

# 訪問調査 準備

## 2つのチームを組織して準備

### ➤ワーキングチーム（事務3名）

役割：事務局機能・実務全般

### ➤プロジェクトチーム（医師4名、看護師6名、薬剤師1名、検査技師1名、事務8名）

役割：会議での意思統一

各部門での準備・進捗状況確認

職員への周知徹底



訪問調査当日の様子

# 訪問調査 準備

## ・ワーキングチーム（事務局・実務）

構成：医局事務課長、研修担当事務2名

準備期間・所要時間：5ヶ月間

4ヶ月前～2ヶ月前：週2回×1.5時間（42時間）

～1ヶ月前：週3回×2時間（24時間）

～前日：週5回×3時間（60時間）

126時間程度

業務内容：調査票各項目の整備状況確認→規定見直し・記録整備  
各部署との調整、当日資料ファイリング作成  
医師・研修医・病院全体への周知、等



訪問調査当日の様子

# 訪問調査 準備

- プロジェクトチーム（医師代表者、各部署の責任者）

構成：医師4名（院長、研修プログラム責任者、医療情報管理部長、  
研修委員会から代表して指導医の医師）

看護6名（看護部長、研修病棟師長2名、ER師長、医療安全、感染管理ICN）

技術2名（薬剤部長、臨床検査技師長）

事務8名（事務長、事務部長、クリニック事務次長、診療情報管理課2名、  
医局事務課長、研修担当事務2名）

業務内容：会議（月1回1時間程度×5回）

各部門ごとの整備進捗状況確認（2時間程度×9部署）



訪問調査当日の様子

## 合計 約100時間前後

- 定例の全職員集会でも事前に周知

多職種による準備のプロセス  
自体が研修システム改善や  
質の向上に繋がる

# 評価結果の公表について

- 病院ホームページに前回訪問調査の認定証・エクセレント賞証を掲載



社団医療法人社団 健生会  
**立川相互病院** 基幹型臨床研修病院  
〒190-8578 東京都立川市緑町4番1  
総合受付：0570-052585

サイトマップ | ご相談窓口 | 個人情報について

日本医療機能評価機構認定病院

**JCEP** 卒後臨床研修評価機構認定施設



# 4度のJCEP評価を経て感じること

- 2008年の初回受審は手探りで、特にStructureの部分での準備が大変であった。病院機能評価受審や過去のJCEP受審の経験も生かすことで負担感は軽減した。経年的に評価を受けることが重要。
- 調査票の評価項目については、適宜バージョンアップされ、実態に即した改訂や解説が加えられていると感じる。
- 訪問調査はタイトなスケジュールではあるが、形成的な評価として、研修医や指導医インタビューには時間をかけたほうが良いと感じる。
- サーベイヤーの質については概ね良好と感じる。当院でも新任の臨床研修センター担当事務にはJCEPサーベイヤー講習会や実務担当者講習会の受講をさせている。
- 医師臨床研修制度は概ね5年ごとに見直し。当院は病院機能評価（5年ごと）とセットでJCEP受審準備を行うこととしている。  
4年に1回の訪問調査の期間はもう少し延長してもよいかもしれない。
- 費用については、病院機能評価を考えれば妥当。

# 受審をすることの意義

- 統一基準に基づいた研修カリキュラム等が構築・運用されることで、研修の質が担保され、研修環境の整備が促進される。
- 医師研修について職員全体に周知され、病院全体で医師を養成する、という意識が向上。他職種教育システム改善や多職種連携教育の推進にも役立つ。
- 患者様にも当院が多職種を教育する病院であるとの認識と、信頼が寄せられていると感じる。
- 結果として、医療の安全性確保や質の向上にも寄与する。

# 第三者評価受審は義務化が望ましい

- 客観的な評価の無い教育は学習者にとって良い学びといえるのか。
- 入院件数が3000件に満たない病院については、定期訪問調査が実施されている。研修の質を担保することは全ての基幹型病院に求められるべきことであり、第三者評価を受けることは積極的な意義を持つ。
- 医師研修のみならず、職員同士学びあう病院文化・職場作りの構築にも寄与し、医療の質向上に資する取り組みと考える。